



BLAUBLITZ AKITA Emissions Report

Reporting Period : 2024/7-2025/6

2026.6.29

株式会社ブラウブリッツ秋田

GHG（温室効果ガス）排出量算定報告書

Supported by  日本財団 THE NIPPON
FOUNDATION

用語の定義 - Scope 1,2&3



※ブラウブリッツ秋田の
対象Scope・カテゴリ

Scope 3 その他の間接排出 - 上流

購入した製品・サービス

資本財

燃料・エネルギー関連

輸送と配送（上流）

廃棄物

出張

通勤

リース資産

Scope1 直接排出

事業所（燃料、漏洩排出等）

社有車

Scope2 間接排出

購入・使用した電気、
熱、冷水、蒸気

Scope 3 その他の間接排出 - 下流

輸送と配送（下流）

販売した製品の加工

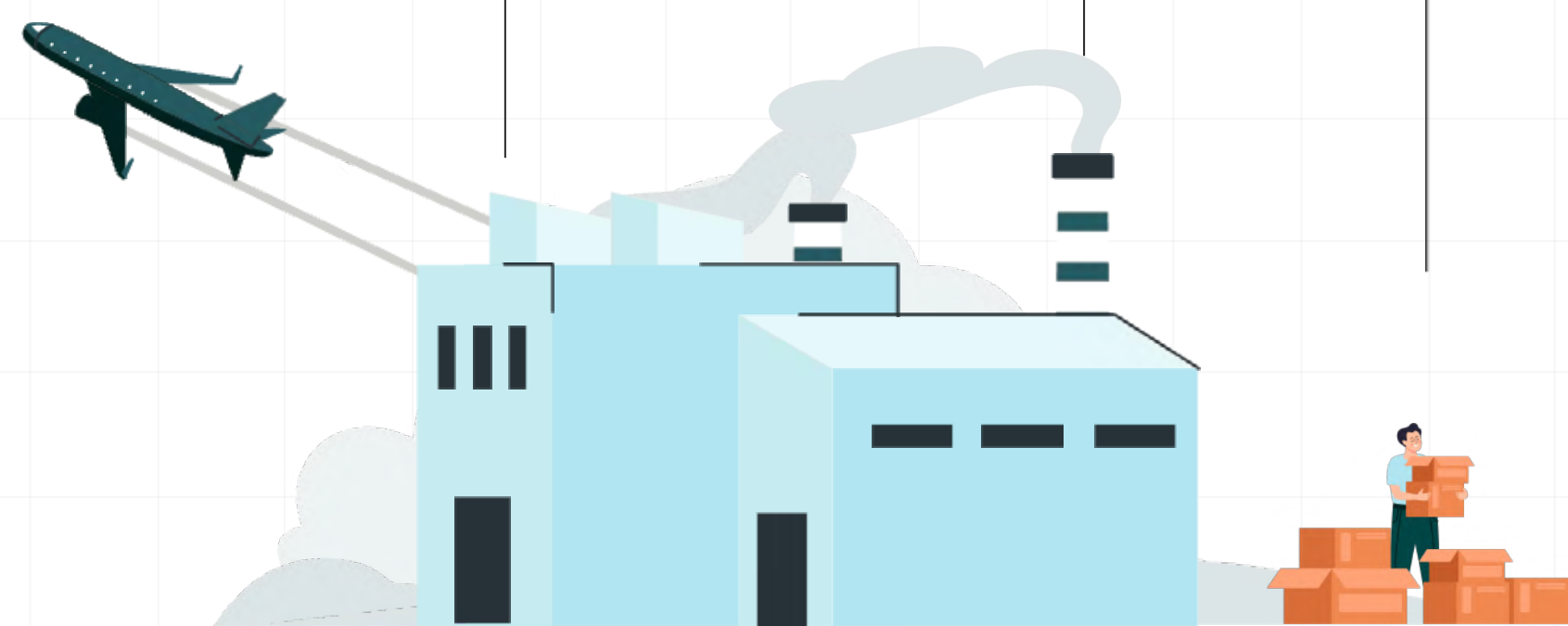
販売した製品の使用

販売した製品の廃棄

投資

フランチャイズ

リース資産



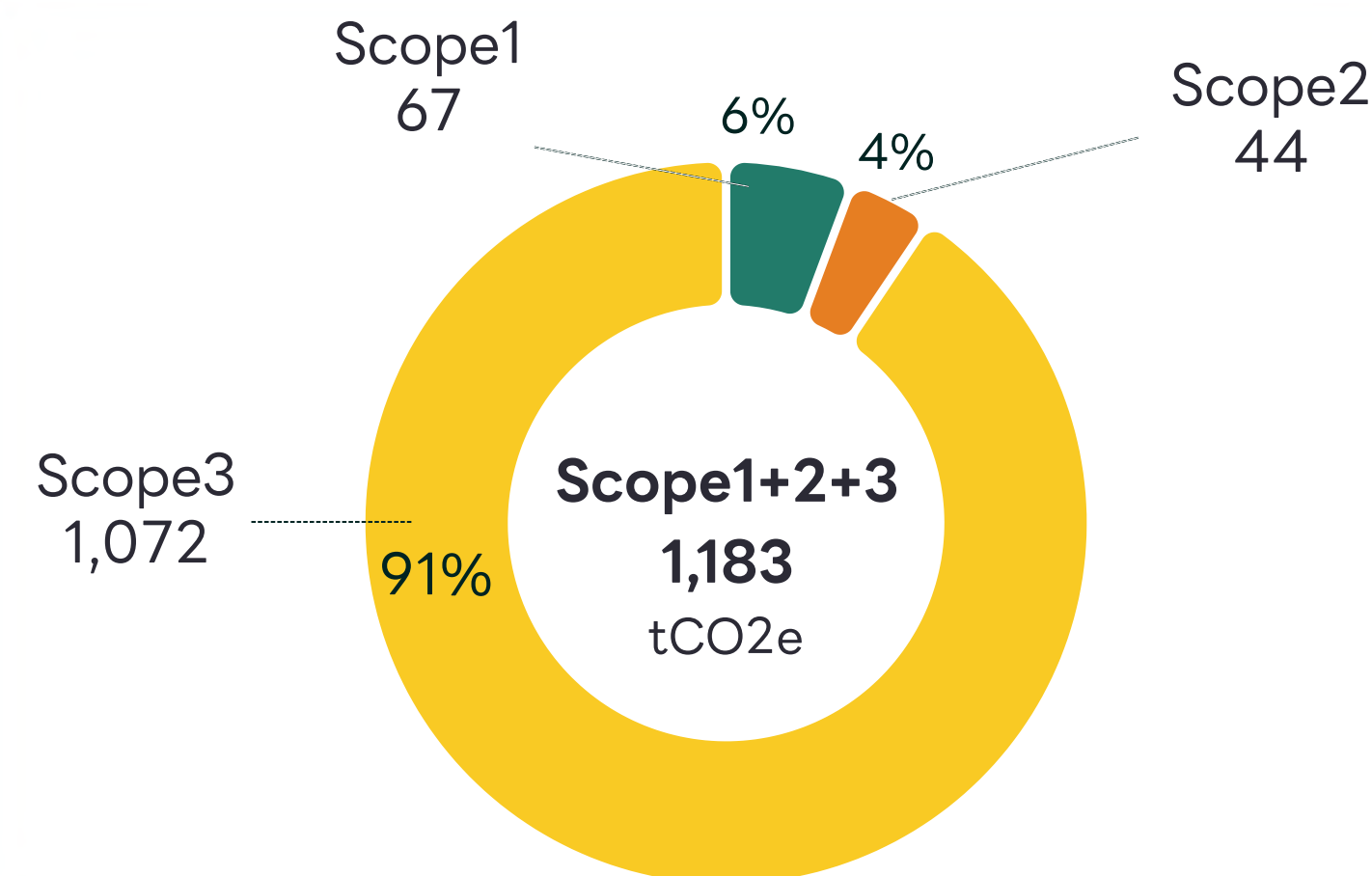
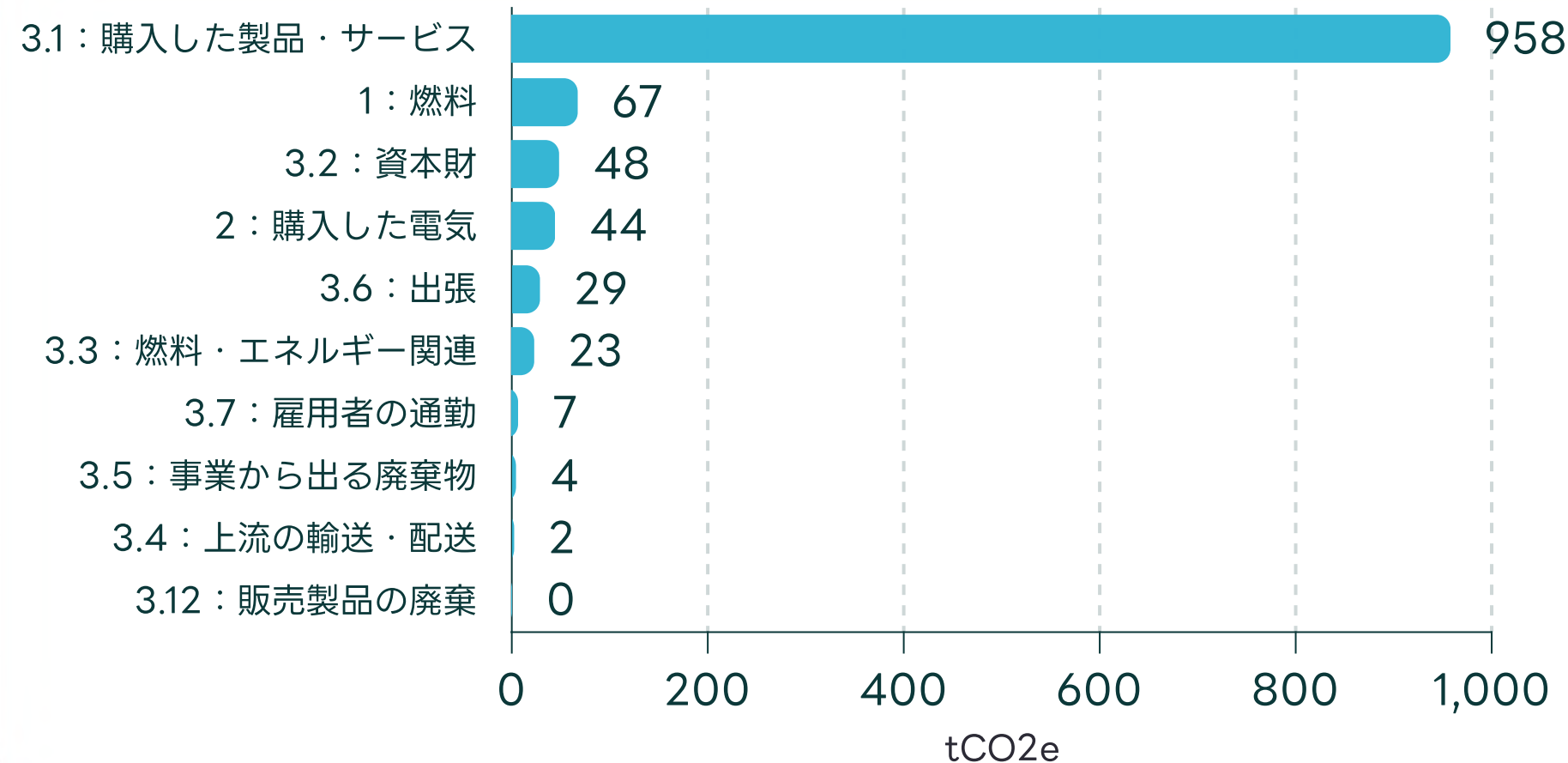
GHG算定に関する情報・前提条件など

項目	内容
報告対象期間	2024年度（2024/7/1-2025/6/30） ※カテゴリ12（販売した製品の廃棄）の算定に使用したグッズ販売データは集計期間が2025年2月－2026年1月
組織境界	- 株式会社ブラウブリッツ秋田 単体 - 算定対象3拠点：本社、クラブハウス、ソユースタジアム（※） ※スタジアムはホームゲーム開催時の廃棄物発生量のみ集計しGHG算定。電力、燃料、水は未算定。
算定範囲	Scope1-3（Scope3対象：カテゴリ1,2,3,4,5,6,7,12）
Scope2の算定方法	ロケーション基準（全国平均排出係数を使用）
Scope3の算定方法	カテゴリ1,2,4,6,7 = 金額ベース、カテゴリ3,5,12 = 物量ベース
データ品質	- 本算定は現時点の入手データに基づく一次推計。 - Scope1,2は使用量の実績（一次データ）で再現性が高い。 - Scope3はカテゴリ1,2,4,6,7を金額ベースで算定。推計値のため、精緻化は今後の優先課題。
使用したデータベース	- 算定・報告・公表制度における排出係数一覧 - 電気事業者別排出係数一覧 - サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.6）
主な仮定	- カテゴリ1,4,6,7は、会計データ（総勘定元帳）を活用し、勘定科目・補助科目・摘要から産業連関表の部門を選定し、排出係数を用いてGHG排出量を算定した。 - カテゴリ12は、販売した製品リストから、素材と重量を推定し、素材別の廃棄に係る排出係数を乗じて算定した。

2024年 7月－2025年 6月 GHG排出量 (Scope1+2+3)

1,183 tCO2e

→	スコープ 1
	67.3 tCO2e
→	スコープ 2 ※ロケーション基準
	44.3 tCO2e
→	スコープ 3
	1,071.6 tCO2e



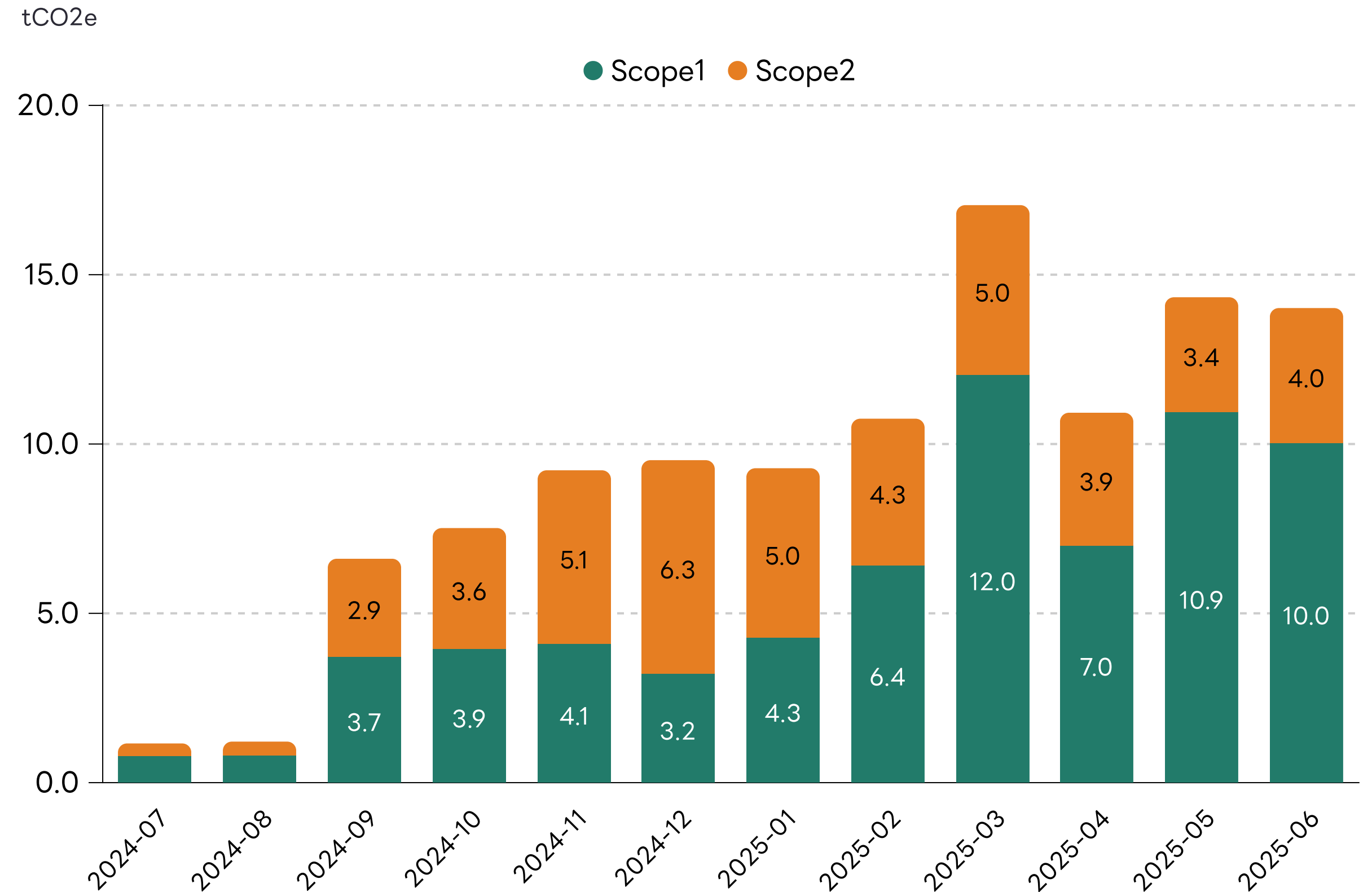
※小数点第1位を四捨五入しているため合計値が合わない場合があります。

The background is a collage of several images related to sustainability and environmental science. It includes a wind turbine on a grassy hill, a person standing in a field with trees, a close-up of a plant, and two people in a field. The images are semi-transparent and layered, creating a textured effect.

Scope1,2 analysis

Scope1 + 2 月次推移

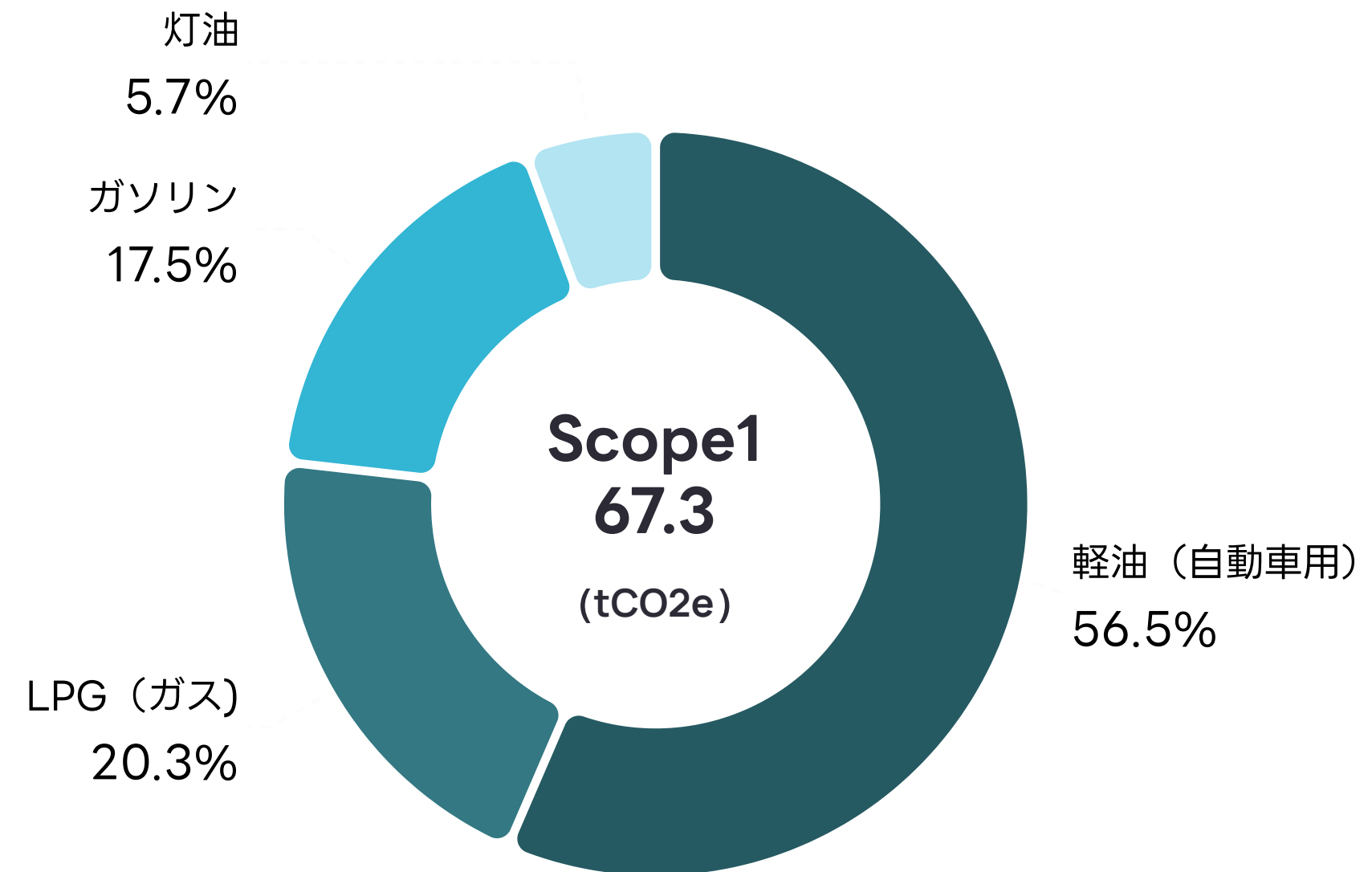
- クラブハウスの使用開始が2024年9月であったため、7・8月は本社のみのエネルギー使用のため低い値にとどまる。クラブハウスが稼働し始めた9月以降は排出量が増加。
- 3月・5月・6月はScope1が高くなっているが、軽油使用量の増加が主因となっている。

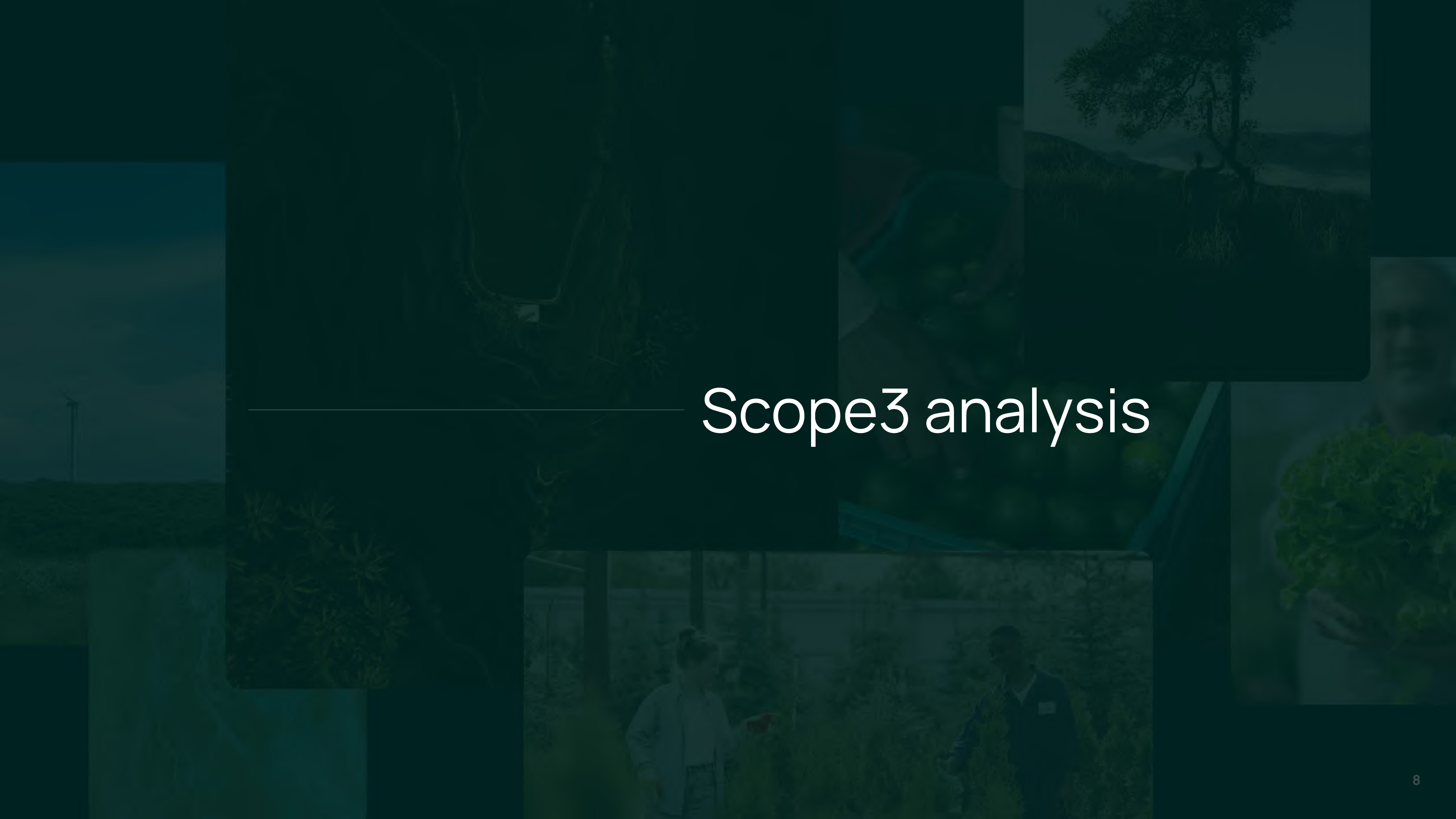


Scope1 分析

- Scope1の排出のうち、軽油（自動車用）が全体の56%を占め最大の排出源となっている。主にチームバスや練習場管理用車両の使用によるものと考えられる。
- 次いでLPG（ガス）が20%を占め、クラブハウスの調理・給湯設備に由来する。
- 削減に向けては、車両の電動化やEV・PHV導入の検討が有効な選択肢となりうる。

Scope1の内訳

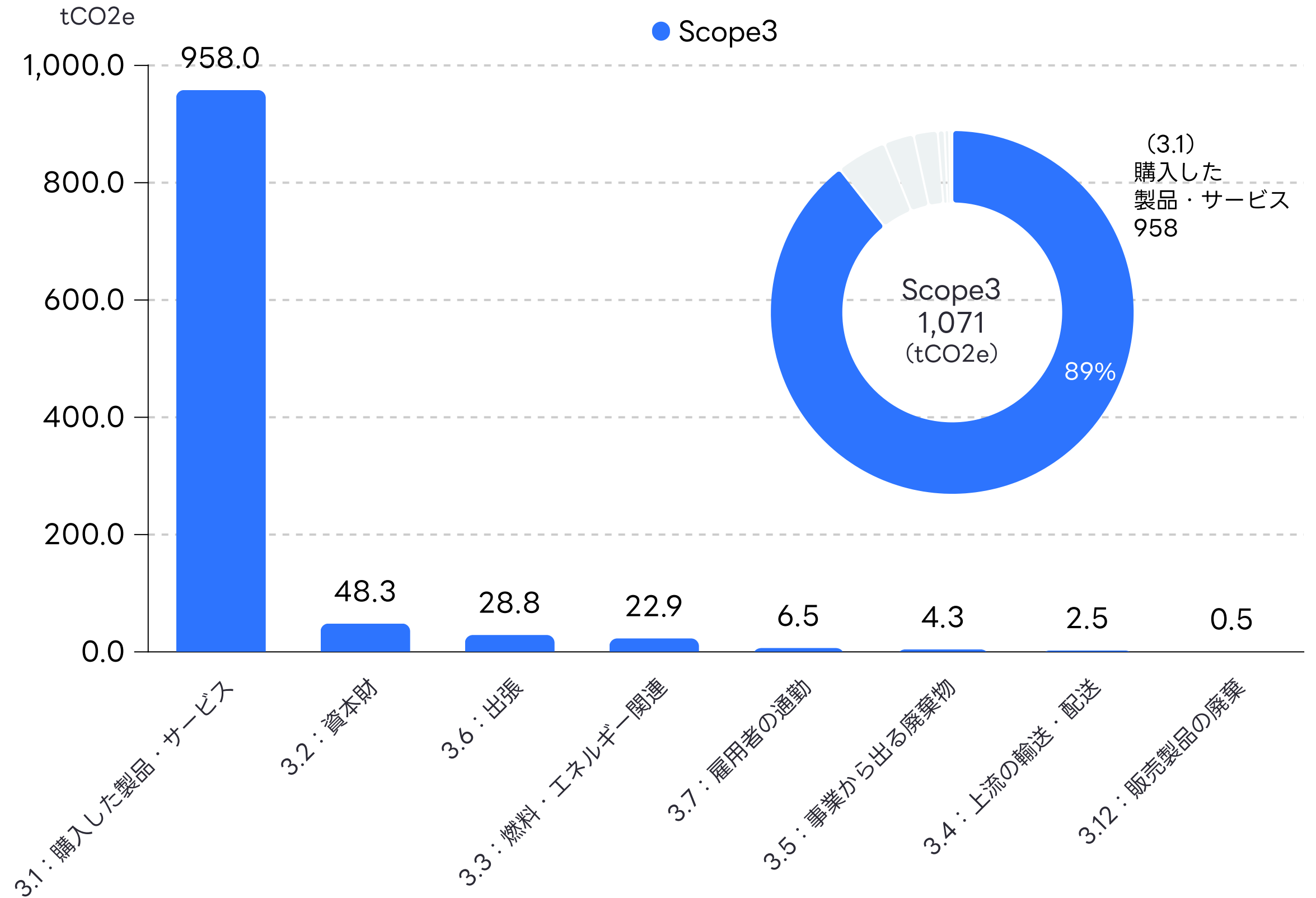




Scope3 analysis

Scope3 カテゴリ別排出量

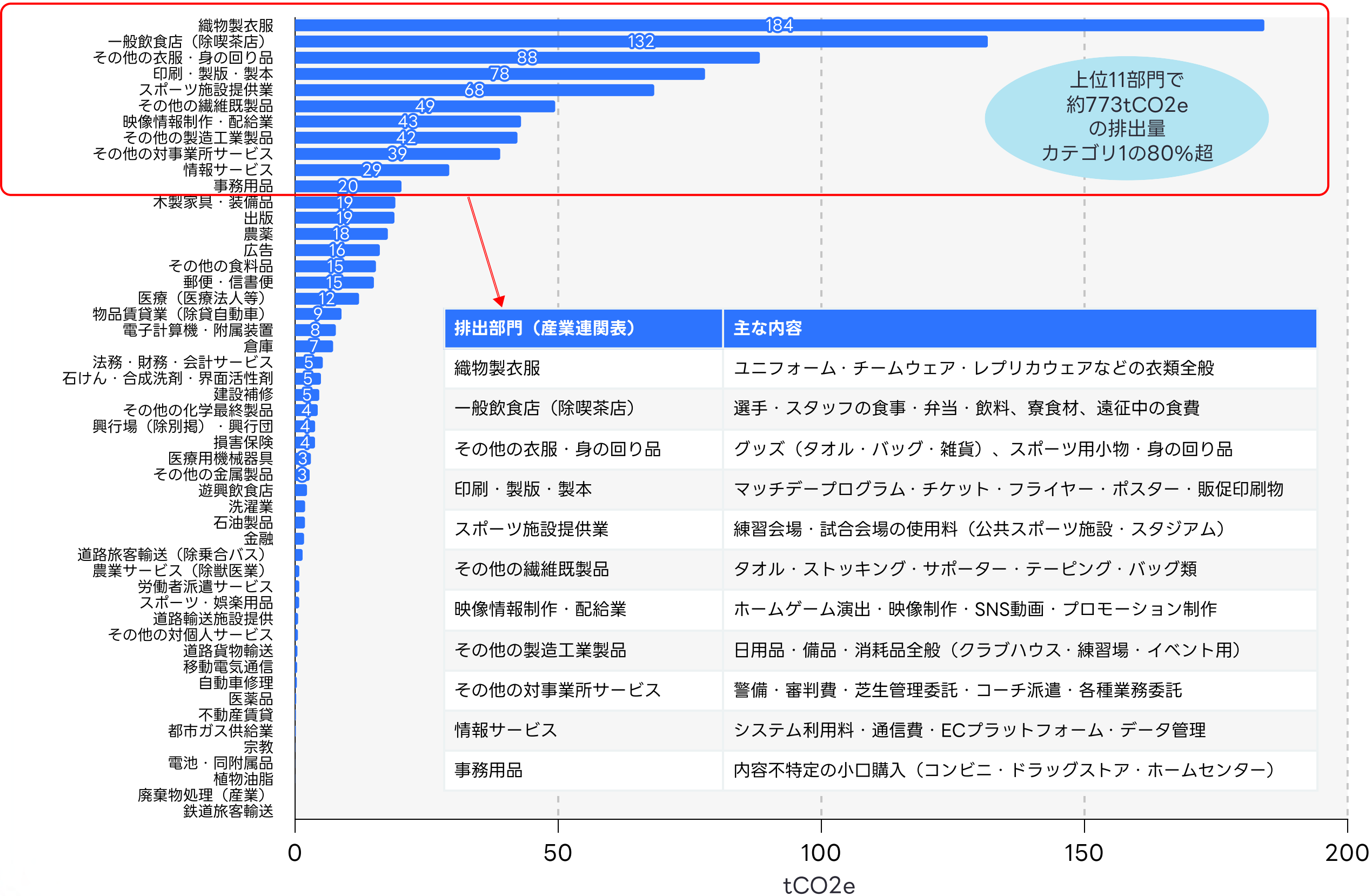
- Scope3ではカテゴリ1（購入した製品・サービス）が89%を占め、圧倒的な最大排出源となっている。支出ベース法による算定のため、支出額の大きな活動が排出量に直結する構造であることに留意が必要である。
- 次いでカテゴリ2（資本財、4%）・カテゴリ6（出張、3%）が続く。
- 今後の削減優先度はカテゴリ1のサプライヤーエンゲージメントと計測精緻化にある。



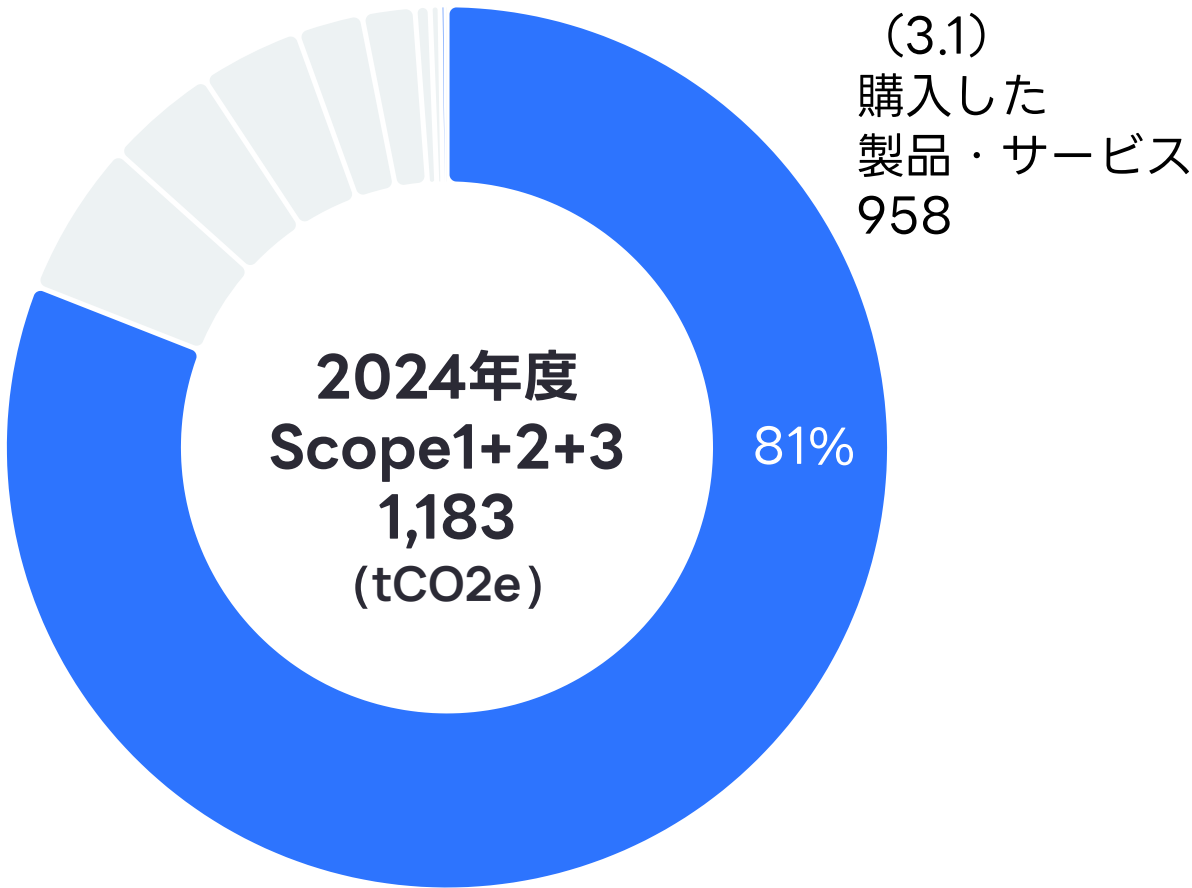
カテゴリ1（購入した製品・サービス） 排出部門別分析

- 産業連関表の部門別に見ると、「織物製衣服」がカテゴリ1の19%（184 tCO₂e）と最大で、ユニフォームやレプリカウェアなどチームウェアへの支出が主因と考えられる。
- 次いで「一般飲食店」（132 tCO₂e）がカテゴリ1の14%を占め、選手・スタッフへの食事提供が排出の大きな部分を担っている。
- 上位11部門で約773 tCO₂e（カテゴリ1全体の81%）を占める。衣類・飲食の他は、衣類以外の繊維系製品（タオル等のグッズ）、印刷関連、施設使用と続く。物販やマーケティングに関連する費用支出に起因する。

● 購入した製品・サービス（排出部門別：全50項目）



排出のまとめと提言



Scope/カテゴリ	排出量 (tCO2e)	比率
3.1：購入した製品・サービス	957.9	81.0%
1：燃料	67.3	5.7%
3.2：資本財	48.3	4.1%
2：購入した電気	44.3	3.7%
3.6：出張	28.7	2.4%
3.3：燃料・エネルギー関連	22.9	1.9%
3.7：雇用者の通勤	6.5	0.6%
3.5：事業から出る廃棄物	4.3	0.4%
3.4：上流の輸送・配送	2.5	0.2%
3.12：販売製品の廃棄	0.5	0.0%

- 2024年度の総排出量は 1,183 tCO2e。Scope3カテゴリ1（購入した製品・サービス）が81%（958 tCO2e）と支配的で、削減の最優先領域である。
- カテゴリ1の内訳で最も排出が多い部門は「織物製衣服」で、ファン・サポーター向けMD品のレプリカユニフォームなど繊維類の排出と思われる。
- カテゴリ1の内訳で次に排出が多い部門は「一般飲食店」で、主に選手やスタッフに対する食事の提供による排出と思われる。
- 今後の削減に向けたステップとしてまずは、仕入れ金額による算定から、物量（重量）×素材係数への移行を検討されたい。次に、主要サプライヤーとのエンゲージメントを通じた”一次データ化”の検討が有効である。

Disclaimer（免責事項）

- 本報告書は、株式会社ブラウブリッツ秋田の2024年度（2024年7月1日～2025年6月30日）におけるGHG（温室効果ガス）排出量の算定結果を取りまとめたものです。
- 本報告書に記載する排出量は、GHGプロトコルおよび環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.6）」に準拠して算定していますが、一部のカテゴリ（特にカテゴリ1・2・4・6・7）は支出ベース法（産業連関表を用いた推計）によるものであり、実際の物量・活動量に基づく算定と比較して不確実性を含みます。
- 本報告書の情報は、入手可能なデータに基づく現時点の推計値であり、今後のデータ精緻化や算定手法の見直しにより数値が変更される場合があります。
- 本報告書の内容の外部公表・転載・引用にあたっては、株式会社ブラウブリッツ秋田の判断に委ねるものとします。



Thank you

zevero.earth